運営委員会委員長賞

# 出会いの輪

山際　由紀子

私達夫婦は、縁あって二三歳と二四歳で結婚。九年間子供が有りませんでした。結婚二十七年目を迎えた今は、高校生の娘が二人の四人家族になることができました。もちろん、山あり谷ありの二十七年でしたが…。今回のこの体験談募集への応募により、私達夫婦が、親になれた事でどのように変わることができたか、どれほど素晴しい仲間に恵まれて来たかを改めて思い返す良いきっかけになりました。

結婚した当初、私達は共働きで都営団地暮らし。平日は職場と家の往復ですが、休日はテニスや買い物、ドライブやスキーにと二人だけの生活を満喫しておりました。そんな中、夫にはひとつ気掛かりがありました。団地住まいですので自治会が有ります。結婚した年の夏、当時保母の仕事をしていた私に『自治会のお祭りで子供向けのお話会をやるの

で、怪談話をして欲しい』と要請があり、面白そうなので二つ返事で快諾。当日、子ども達三十人程が怖そうな顔でじっと聞いてくれました。こんなお祭りでも、自治会の係りの人が企画準備を担当し当日は自治会全体で盛りあげます。そんな自治会、組長が団地の部屋の並び順で回って来ます。結婚二年目に、いよいよ我が家に回って来ることになっておりました。私は平気だったのですが、当時人付き合いの苦手な夫は、とても引き受ける気にはなれず…。ましてや四十代五十代の方々がほとんどの中、二十代の自分など一緒に出来るわけが無いと思ったのでしょう。まもなく、私達は普通のアパートに引越ました。団地と自治会から逃げ出したのです。

その後も二人の生活は相変わらずです。夫が地元出身なので高校時代からの友達との付き合いが続いておりました。一緒にテニスをしたり、毎年夏には旅行に行ったり。そのうち一組、二組と結婚し、当たり前のように子どもが産まれます。でも私達にはできないまま。『どうしてできないの?』悩む私と、『いなければいなくても良いんじゃない?』と考える夫。当時、夫はそれ程子ども好きではありませんでした。例えば、電車の中で赤ちゃんや子どもが泣いていたりすると、「うるさいなー。」と、もろ嫌な顔をします。「何か嫌

なことが有るから泣いているのよ。お母さんだって困っているわ。」と私が話しても夫には伝わりません。泣いている子やそのお母さんのことを理解しようとしない夫。まさに〝その人の立場に立たないと、その人のことは解らない〟という事でした。それにしても、夫の一人よがりな考え方や、なんとなく周りの人に冷たい態度が気になりだした私でした。

結婚五年目。私は一旦仕事を辞め、不妊治療を始めます。日中はアルバイトと病院通い、夜間は週三日、以前から興味を持っていた幼児教育の学校にも通い始めました。しかし不妊治療は続ければ続ける程時間と治療費が掛かります。さらに身体と精神への負担も増す一方です、結局、半年で終了してしまいました。仕事は、通っていた学校の先生が声を掛けて下さり、小さい幼児教室で教師をする事に。その幼児教育の勉強がとても面白く、日中は教室で実習さながら子どもと接し、夜間は学校で勉強。二年間で資格も取得できました。その後も私は教室で教師を続けることが出来て、とても充実していた時期です。一方夫は、妻が好きにやっているのだから自分も…と、帰りの遅い日が続いておりました。この頃、二人の気持ちはだんだん違う方向に向き始めておりました。

結婚八年目。子どもを諦めた私達は、気持ちを切り替えるためにも、アパートから自分達の〝家〟を考え始めます。まだバブル期の高値続きの頃だったので、やっと中古の２ＤＫマンションを購入。狭いマンションでしたが、二人だけなら十分な広さでした。そして半年後…。引越しした方角が良かったのでしょうか。なんと、ついに待望の赤ちゃんが出来たのです。もう諦めていたので、妊娠がわかった時のあの驚きと喜び！私のお腹の中でひとつの命が芽生え、それが、だんだん大きく育って行く。とても不思議で至福の感覚でした。それは、夫も同じだったのでしょう。帰りが早くなり私をいたわってくれるようになりました。二人の気持ちは又、同じ方向を向き始めておりました。私は、産休制度のない職場だったのと通勤に一時間半かかる為、妊娠七ヶ月で退職。それから長女が誕生するまでの四ヶ月間は、赤ちゃん用品を手作りしたり、いろいろ買い揃えたり、私にとっても夫にとっても、人生で一番ゆったり過ごせた時間となりました。さらに、私の妊娠により、夫に変化が現れ始めました。ときおり見掛ける赤ちゃんや小さい子どもに対して「あの子は何歳くらい？」「赤ちゃん、かわいいね」と関心を示すようになったのです。とても嬉しい驚きでした。

妊娠中の経過も良く、東北の実家で無事に里帰り出産。女児誕生の連絡を受け、すぐに飛行機で駆け付けてくれた夫です。生まれたての我が子をぎこちなく抱っこした姿は忘れられません。そして一ヶ月検診を終え帰宅。いよいよ子育て奮闘記の始まりです。近所に頼れる人も無く、新米ママとパパの二人だけの子育ての始まりでした。紙オムツが出始めておりましたが手作り布オムツを使用。日々たくさんの洗濯物で、一緒にオムツ畳みもやりました。お風呂は夫の担当で、これは次女が生まれてからもずっと続く事になります。初節句にも気合が入りました。選び抜いて雛人形を購入。今となっては我が家の一番の宝物です。夫にとって、我が娘がどれ程可愛かった事か。父親になった事は、きっと人生最大の出来事だったに違いありません。『子を持って、初めて知る親の思い』と言われますが、まさにその通りだったのでしょう。夫の父親はもう他界しておりましたが、その頃からよく思い出話をしてくれました。「孫の顔を見せたかったなぁ」とも。そして、長女が一歳十ヶ月のとき次女が誕生。ますます賑やかで忙しく、幸せな毎日となりました。

長女が三歳三ヶ月、次女が一歳半になったとき、私は仕事を再開。娘たちは地元の保育園に入所。朝は、夫がフレックスタイム利用して娘たちを保育園に送り、帰りは私が迎え

に行く毎日が始まりました。私が遅番の時は近所の年配のご夫婦にお迎えをお願いし、いわゆる二重保育を行いながらなんとか親子で頑張った五年間です。その間、同じ地域の少し広いマンションに引越し。ここで学区が変わり、その事が今の我が家の大きな転機になりました。娘たちは一学年あけて若草小学校に入学。同じクラスになった友達とも家族ぐるみの付き合いから、〝若草親児の会〟の立ち上げに携わることになります。

保育園の頃から夫は、毎朝の送り、親子遠足や保護者会への参加と、とても協力的な父親でした。素直に、『娘達の為に…』と、頑張っておりました。学校の授業参観や運動会にもいそいそと出かけており、子どもを中心に、親同士の付き合いも少しずつ広がっていた頃です。長女の同級生のお父さんのTさんに『〝お父さんの会〟の立ち上げの話があるんだけど…』と声を掛けられました。その話し合い（飲み会）に興味津々で参加。十人ほどが集まり、話し合いは大いに盛り上がり、若草小学校に〝オヤジの会〟を創ることになったのです。〝オヤジ〟を、母親も含めた親と子ども（児童）の会と言う意味で〝親児〟と表記し、長女が五年生になった時に、この〝若草親児の会〟が発足。いろいろな職業のお父さん達が集まり、次々と楽しい事を企画しました。各々の出来ること、得意なことが

結集すると、すごいパワーになります。もちろんお母さん達の手伝いも欠かせませんが。今までに、やってきた行事は、キックベースボール大会、夏休みの学校に泊まろうキャンプ、キャンプファイヤーに肝試し大会、校舎全体を駆け巡るクイズ大会、ドラム缶ピザ作り、豚の丸焼き大会、ダチョウの卵でカステラ作りなど等。次女が若草小を卒業してもう三年が経ちましたが、未だにＯＢとして参加させてもらい、若いお父さんと一緒に楽しんでいる夫です。

長女が霞台中学校の二年生になった時には、〝親児の会〟発足時のメンバー、Ｙさんが
ＰＴＡの会長になり、なぜか夫が副会長になってしまいました。一番驚いたのは妻である私です。副会長を三年間続け、その後、霞台中学校ＰＴＡ・ＯＢ会を立ち上げ、今のところ会長だそうです。霞台中学校で続いている〝花いっぱい運動〟。年二回の花の植え替えの日には休日返上で出向き、参加した生徒や保護者、地域の方々にカキ氷やポップコーンを振舞います。生徒たちが喜んでくれる事がとても嬉しいとか。地域のお祭りの模擬店にもＯＢ会で出店。売り上げを学校に寄付したそうです。

若い頃、自治会が嫌で団地から逃げ出した夫。子どもが出来てからは、娘達の為、周り

の子ども達の為、生徒の為、学校の為、そして、地域の為にと自分に出来ることを、進んでやるようになってきました。何がこんなにも夫を変えたのでしょうか。どうして夫は変れたのでしょうか。やはり子どもが出来たことが大きな要因である事は間違いありません。娘達と出会い、娘達を通して友達やその父母と出会い、その周りの地域の方々と出会い、学校の関係者と出会い、どんどん広がって行く出会いの輪。その〝出会いの輪〟の中で、徐々に変って行くことが出来たのだと思います。

あと数年で、娘達は私達の元から巣立って行くでしょう。その後はきっと、私も夫と一緒に、この地域のたくさんの仲間と、何か、次の楽しい事を始めているに違いない…と思う今日この頃です。